

夏から秋へ

宮坂静生

武蔵国分寺趾 四句

萩の道いづもどこかに擦過音
猪猛けし武蔵大野のここが崖
恋ヶ窪とて秋の水うまきこと
天平の塙せんの掘られし秋のこゑ

横山貞利の死（八月二十七日）八十二歳

塙一れんが

浅間嶺の霧に捲かれしことも夢
虫がくと減り日本の窄みたる
人間力弱るか虫に押しくられ
土佐つぼのをんなと梨と砂山と
青松虫以外の虫は鳴きくれず

草木瓜の朽ちたる眼窩らしきもの
木乃伊より草木瓜の実の乾びたり
芋虫の地球の裏へ廻りけり

岳・拓へ

月滑り落つ唐松岳のテント泊
長女一家へ

子が帰るシュツットガルトの樹海まで

セルビアもグルドも友にゐて飛蝗

「人生の旅は絵本を手」（柳田邦男）を聞く

赤松に日が絵本ほど八月尽

『俳句必携——〇〇〇句を楽しむ』上梓

荷を揺り上げ秋雲の途みち半ば
耳搔のいつか真赤や神の留守

